

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器集団検診機関

一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会（現：日本消化器集団検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満25年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行なう一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第66回協議会 平成20年8月25日(月)
(2) 第67回協議会 平成21年1月26日(月)

2. 幹事会の開催

- (1) 第81回幹事会 平成20年8月4日(月)
(2) 第82回幹事会 平成20年8月25日(月)
(3) 第83回幹事会 平成20年12月8日(月)
(4) 第84回幹事会 平成21年1月26日(月)

3. 研修会

日時：平成21年1月26日(月)
テーマ：わが国のがん検診の動向と課題
講師：神奈川県立がんセンター 岡本 直幸 先生

4. 技術部会（全体会議）

- (1) 第1回 平成20年5月21日(水)
(2) 第2回 平成20年8月20日(水)
(3) 第3回 平成20年11月12日(水)
(4) 第4回 平成21年2月18日(水)

5. 講習会（がん検診X線撮影従事者講習）

日時：平成21年1月25日(金)
主催 神奈川県 *共催機関として協力

神奈川県消化器集団検診機関

一次検診連絡協議会名簿

| | | |
|--------------------------|--------|-------|
| 横浜市立市民病院がん検診センター | 会 長 | 今村 清子 |
| 川崎市がん検診センター | 検診担当部長 | 石山 暁 |
| (財)逗葉地域医療センター | 所 長 | 川原 英之 |
| (医)松英会 | 施設 長 | 丹波 靖 |
| (財)京浜保健衛生協会 | 理事 長 | 寺門 運雄 |
| (医)倉田会 メディカルサポートクリニック | 理事 長 | 矢作 淳 |
| 神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター | 院 長 | 河合 恒雄 |
| (財)神奈川県労働衛生福祉協会 | センター長 | 中安 邦夫 |
| (財)結核予防会神奈川県支部 | 会 長 | 藤原 孝憲 |
| (財)神奈川県予防医学協会 | 専務理事 | 磯村 共庸 |
| 神奈川県立厚木病院 | 理事 長 | 土屋 尚 |
| (医)社団相和会産業健診事業部 | 病 院 長 | 田代 和也 |
| (医)藤原会藤沢総合健診センター | 理事 長 | 土屋 章 |
| | 理事 長 | 石井 敏之 |

相談機関

| | | |
|----------------|-----|----------------------------|
| 神奈川県保健福祉部健康増進課 | 課 長 | 鈴木 吉明 |
| 神奈川県医師会 | 理 事 | 石井 出 |
| 神奈川県医師会 | 理 事 | 羽鳥 裕 |
| | | 平成21年8月1日現在 (事務局 稲葉 稔明) |

神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師もしくは、その仕事に携わる人々を対象にお互いの知識・技術の向上をめざし、日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器科 粉川 敦史医師に世話人をお願いし、下記の通り行われた。

第28回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日時 平成20年4月27日(日)
会 場 (財)横浜市教育会館
世 話 人 公立大学法人横浜市立大学附属市民医療センター

消化器 粉川 敦史
技師世話人 初療室 青地 広美
内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会
一般演題 3題

特別講演 「大腸早期癌の内視鏡診断と治療」
パネルディスカッション
「内視鏡室における患者サービス
やちょっとした工夫」

入場者 415名

特別講演は、国立がんセンター中央病院 内視鏡部医長 齋藤 豊先生が最先端の大腸がん内視鏡診断と治療について多くのスライドを使いわかりやすく講演して下さった。

パネルディスカッションでは、施設で検査をより安全に安心して受けていただく為に実施している創意工夫やパンフレット等独自の取り組みを発表していただき、あらたなヒントやきずきをもらうことができた。

顧問（五十音順）

| | |
|-------|---------------|
| 青木 誠孝 | 青木医院 |
| 小泉 博義 | 藤沢湘南台病院 |
| 比企 能樹 | 北里大学病院名誉教授 |
| 藤田 力也 | 昭和大学藤が丘病院名誉教授 |
| 三輪 剛 | 東海大学医学部病院名誉教授 |
| 山川 達郎 | 帝京大学溝口病院外科 |

役員

| | |
|-------|-----------------------|
| 青地 広美 | 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター |
| 片野早江子 | 聖マリアンナ医科大学病院 |
| 星野 朱美 | 横須賀共済病院 |
| 佐藤 和夫 | 神奈川県労働福祉協会 |
| 佐伯 美奈 | 聖マリアンナ医科大学横浜西部病院 |
| 菅原ゆかり | 松島クリニック |
| 瀬戸 道雄 | 青木医院 |
| 谷合 幸乃 | 横浜市職員 |
| 納所けい子 | 神奈川県予防医学協会 |
| 中村 深雪 | 横浜市民病院 |
| 花木由香里 | 村松内科胃腸科クリニック |
| 藤田 賢一 | 帝京大学溝口病院 |
| 藤森 弘樹 | 昭和大学藤が丘病院 |
| 松橋 妙子 | 国際親善病院 |
| 三浦 美保 | 北里大学東病院 |
| 武藤美枝子 | 東海大学病院 |

(事務局 納所 けい子)

横浜市マンモグラフィ判定委員会

厚生労働省のがん検診の指針に則り、横浜市は平成13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の45医療機関（平成21年4月現在63機関）を対象にマンモグラフィ併用検診を開始した。

平成17年7月から、対象者を40歳以上の隔年とし、40歳代には2方向撮影、50歳以上には1方向撮影にて実施している。

システムとしては、上記医療機関では視触診とマンモグラフィを同時実施とし、装置のない医療機関は視触診のみを実施し装置のある医療機関でのマンモグラフィ撮影を行い、一次読影を撮影医療機関で行ってフィルムを判定委員会に送付する。判定委員会では二次読影を行い、読影結果とフィルムを視触診を実施した医療機関に返し、そこで総合判定を行い受診者に説明するというシステムである。

判定委員会システムの運営は、事務局としての当協会が担当している。

判定委員会には撮影に従事する放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めている。

平成20年度は、10月ごろより判定依頼数が急増し、12月3回、3月5回の計8回の臨時判定会を開催した。判定数も34556件となり過去最高となった。

判定会開催（20年4月～21年3月）100回

検討会開催（5月28日、3月16日）

ワーキンググループ開催（6月25日）

判定委員会委員長

聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科教授
福田 護

副委員長 八十島クリニック 八十島唯一
判定委員 31名

（事務局：栗原 博）

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されています。53年度以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施いたしました。

その後昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に変わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長 福田護（聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授）が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が逐行されています。

同連絡会は「県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会（会長 福田護（同上）、事務局県保健福祉部）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されています。

また同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請しております。

そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めています。

会 員（敬称略：順不同・平成21年8月1日現在）

会長・聖マリアンナ医科大学病院乳腺 福田 護
乳腺・内分泌外科 教授

<医療機関名>

| | |
|-----------------|-------|
| 横浜市立大学医学部一般外科 | 利野 靖 |
| 横浜市立民総合医療センター外科 | 石川 孝 |
| 昭和大学藤が丘病院 | 松宮 彰彦 |
| 横浜南共済病院 | 松川 博史 |
| 日本医科大学付属第二病院 | 天神 敏博 |
| 聖マリアンナ医科大学病院 | 緒方 晴樹 |
| 藤沢市民病院 | 仲野 明 |
| 藤沢湘南台病院 | 田村 功 |
| 茅ヶ崎市立病院 | 小林 一博 |
| 北里大学病院 | 蔵並 勝 |
| 平塚共済病院 | 谷 和行 |
| 小田原市立病院 | 小山 隆史 |
| 山近記念総合病院 | 久保田光博 |
| 秦野赤十字病院 | 蓮尾 公篤 |
| 東海大学病院 | 徳田 裕 |
| 三浦市立病院 | 小澤 幸弘 |
| 大和市立病院 | 竹下 利夫 |
| 東海大学大磯病院 | 大谷 泰雄 |
| 伊勢原協同病院 | 飯尾 宏 |
| 平塚市民病院 | 金井 歳男 |
| 熱海病院 | 岩崎 博幸 |
| 海老名総合病院 | 内山喜一郎 |
| 津久井赤十字病院 | 荒井 義孝 |
| 東芝林間病院 | 竹中 晴幸 |
| 相模台病院 | 坂本いづみ |
| 横浜旭中央病院 | 櫻井 修 |
| 横浜掖済会 | 高橋 利通 |
| 横浜市南部病院 | 池 秀之 |
| 湘南記念病院 | 土井 卓子 |

（事務局：稲葉 稔明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし早期乳がん発見をするために画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報の伝達や医療現場の情報など普及活動を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤 善廣
(川崎市立多摩病院)

平成20年度の活動状況

《第35回研究会・第12回超音波研究会》

開催日時：平成20年7月5日(土)

14:00~18:00

会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. デジタルマンモグラフィを学ぶ

「平面検出器について」

シーメンス旭メディテック株式会社

大塚恭一先生

「モニターについて」

東陽テクニカ

小林直樹先生

「デジタルマンモグラフィの診断について」

国立がんセンターがん予防・検診研究センター
内山菜智子先生

2. 「乳腺病理の基礎の基礎」

日本医科大学付属病院 病理部 永井祥子先生
参加者：210名

《第36回研究会・第13回超音波研究会》

開催日時：平成20年12月13日(土)

14:00~18:00

会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. 乳癌の診断から治療まで

「診断に寄与できる画像提供を目指して

—マンモトーム生検・MRI—

独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター 放射線科 川崎あいか先生

「乳癌の診断と治療」

湘南記念かまくら乳がん甲状腺センター

センター長 土井卓子先生

2. 「乳腺病理の基礎の基礎 (part II)」

日本医科大学付属病院 病理部 永井祥子先生
参加者：153名

《第37回研究会・第14回超音波研究会》

市民公開講座

開催日時：平成21年3月14日(土)

14:00~17:00

会場：県民共済 みらいホール

1. 「just smile! ~いつも笑顔で~」

元宝塚歌劇団

東地美佳さん

ミニショー友情出演

五月梨世さん

2. 「乳がん体験者から学ぶ…医師の立場から」

コスモス女性クリニック院長 野末悦子先生

3. 「乳房自己検診の方法」

保健師

依田氏

参加者：120名

世話人会の開催

- ・平成20年6月4日 18:30~20:20
- ・平成20年10月6日 18:30~20:00
- ・平成20年11月17日 18:30~21:00
- ・平成21年2月6日 18:30~21:00
- ・平成21年2月25日 18:30~21:00

於：神奈川県予防医学協会

(事務局：見本喜久子)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、県内において企業等の健康管理支援業務を行う企業外健康管理機関が、より質の高いサービスを提供するため、健康管理全般に関する精度の向上、適正な事業の運営について、共通の諸問題を協議している。さらに労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成20年度の会員機関は16機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

平成20年度活動状況

第1回協議会(平成20年11月5日)

1. 神奈川労働局からの連絡事項

- ・労働安全衛生規則等の一部改正する省令案(平成21年4月1日から適用)
- ・労働安全衛生法施行令等の一を改正する省令案(平成21年4月1日から適用)
- ・第11次労働災害防止推進計画(期間 平成20年度~24年度)
- ・平成20年度 神奈川の労働衛生の現状

2. 講演

テーマ：「産業医の立場から企業外健康管理機関への要望」-特定健診・特定保健指導の開始に伴って-

講師：味の素株式会社 川崎健康管理センター

産業医 古河 泰様

- (1) 産業医の立場からの産業保健活動
- (2) 産業医の仕事、健康診断へのニーズの変化
- (3) 企業外健康管理機関と顧客の関係や顧客のニーズ
- (4) 特定健診・特定保健指導の開始に伴ったニーズの変化

3. 情報交換

・特定健診・特定保健指導の対応策と問題点

第2回協議会(平成21年3月18日)

1. 神奈川労働局からの連絡事項

・改正労働安全衛生法令等について

2. 講演

テーマ：「特定健診・特定保健指導事業の現状と課題」-評価のすすめ方-

講師：公立大学法人横浜市立大学 教授 水嶋

春朔先生

- (1) 保険者データの管理から分析・評価までの考え方
- (2) 特定健診、特定保健指導における禁煙の重要性

3. 情報交換

・特定健診・特定保健指導の実績と問題点

・レントゲン機器はアナログからデジタルへ移行

機関名 ▲代表幹事 ●幹事

▲(財)神奈川県予防医学協会

●(財)神奈川県労働衛生福祉協会

●(財)ヘルス・サイエンス・センター

(財)京浜保健衛生協会

●(財)結核予防会 神奈川県支部

(財)全日本労働福祉協会

(財)日本予防医学協会 東日本統括センター

(財)労働衛生協会

独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院

健康管理センター

(財)労働科学研究所

(医)社団 日健会 日健クリニック

(医)社団 相和会

(社)衛生文化協会 城西病院

独立行政法人 労働者健康福祉機構 横浜労災病院

海外勤務健康管理センター

(財)逗葉地域医療センター

神奈川県厚生農業協同組合連合会

健康管理センター

※平成21年3月31日現在

(事務局 根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登録機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

平成20年4月から開始された特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、医療保険者の義務として、40歳から74歳の被保険者ならびに被扶養者のうち、生活習慣病のハイリスク者に対し、食生活の改善指導および運動指導を実施する生活習慣病予防対策である。

これに対して、T H Pはすべての労働者を対象とした心とからだの両面にわたる健康づくりである。

生活習慣病を効果的に予防するためには、特定保健指導の対象となるハイリスク者への指導はもとより、ハイリスク者を生じさせないよう、各事業場では医療保険者と連携しつつ、すべての労働者を対象に継続的かつ計画的に、労働者の健康の保持増進のための措置を実施することが有効となる。

<平成21年度加入機関>

(財)神奈川県労働衛生福祉協会
 (医社)善仁会 横浜東口ヘルスチェッククリニック
 (医社)こうかん会W
 (財)神奈川県予防医学協会 (事務局 北見 護)

肺疾患検討会

平成20年度内の開催は4回で以下の通りである。

第127回 平成20年5月20日 神奈川県立がんセンター 呼吸器外科。中山治彦先生、伊藤宏之先生他。4例の肺がん手術後数年から数十年を経過してから出現した肺腫瘍に対する手術例。

第128回 平成20年9月9日。県立循環器呼吸器病センター 呼吸器外科。田尻道彦先生、大森隆広先生、高橋航先生。胸部X線にて嚢胞を認めた3例（気管支嚢胞、CCAM、Birt Hogg Dube症候群）

第129回 平成20年11月25日 横須賀共済病院 呼吸器外科。諸星隆夫先生、生津晶子先生、五来厚先生。1)肺炎のため診断が遅れた肺癌2例。2)迅速標本で悪性も考えられたため手術を行ったLipoepithelioma-like carcinomaの1例。3)左上葉の空洞形成をCTでfollow中に壁の肥厚を認めたSpindle cell carcinomaの1例。

第130回 平成21年2月24日 横浜労災病院 呼吸器外科。前原孝光先生、足立広幸先生。1)化学療法・放射線療法が奏功した右上葉縦隔肺癌の1例。2)CT上、肺癌を思わせた小肺膿瘍。3)一見、肺癌状に見える肺過誤腫の1例。4)MALTリンパ腫の1例。5)20年前の乳癌再発? 転移? の1例。6)PETが肺、肝、脾に多発性腫瘍を認めたサルコイドーシスの1例。

以上 幹事 井出 研

なお5月26日 例会に先立ち幹事会が開かれ会計報告その他の議事について承認された。
 (事務局 井出 研)

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(社)日本作業環境測定協会会員により設立。現在、支部の会員は、自社4、機関28、指定1、委託2の計35会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成20年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

- ①総会1回 ②機関全体集会1回 ③理事会2回
④技術専門委員会7回

事 業

I. 作業環境測定推進大会 (20.9.11)

①特別講演

「最近の労働衛生行政の動向」

神奈川労働局労働衛生課長 高橋 俊一氏

②有機溶剤業務における作業環境濃度とばく露濃度との関係について

中災防 労働衛生センター 山室 堅治氏

③メタボリックシンドロームの自己管理法

(財)神奈川県予防医学協会 朽久保 修氏

II. 技術研修会

(1)第1回技術研修会 (20.5.9)

～労働衛生屋から見た化学物質環境の変遷～
麻布大学 名誉教授 中明 賢二氏

(2)第2回技術研修会 (20.11.28)

工場見学会：住友重機械工業(株)横須賀製造所

(3)第3回技術研修会 (21.2.27)

①最近の法令改正(衛生関係)について

神奈川労働局労働衛生専門官 居川 政宣氏

②ホルムアルデヒドの測定法について

1) 分析手法について

ジーエルサイエンス(株) 今中 努志氏

2) 測定事例について

(財)山梨労働衛生センター 望月 速人氏

(財)神奈川県予防医学協会 張江 正信氏

③保護具の取り扱いと実演

(株)重松製作所 安藤 真理氏

理事・技術専門委員名簿

| 役員 | 技術専門委員 |
|------------|-----------------|
| 田原 仁 | 竹内猪佐夫(菱重エステート) |
| 副支部長 井澤 方宏 | 芦田 敏文(予防医学協会) |
| 〃 大角 武志 | 灰塚 正隆(オオスミ) |
| 理 事 蒔田 道則 | 竹平 知義(労働衛生福祉協会) |
| 〃 吉留 浩二 | 佐藤 研二(住友重機械) |
| 監 事 望月 明彦 | 望月 速人(山梨労働センター) |
| 〃 池田 善郎 | 星野 健二(JFEスチール) |
| 行 政 高橋 俊一 | 中村 宏彰(神奈川労働局) |

(事務局・芦田 敏文)

神奈川県簡専水協議会

簡易専用水道検査機関協議会は、昭和54年4月1日に神奈川県内の簡易専用水道(受水槽の有効容量が10m³超)の施設を検査する7検査機関で設立された。協議会の目的は、簡易専用水道の適正な維持管理、検査事例報告および検査精度の統一などを図るため発足された。

発足当時は厚生労働大臣の指定制であったことから、検査地域の指定、検査料金の統一などが図られていたが、平成16年3月の水道法改正により、厚生労働大臣の登録制と変更されたことで、検査地域、料金設定などが自由に決定できることになった。

現在協議会は、神奈川県内の地域を検査対象としている9機関で構成されている。平成20年度の協議会活動は3回開催され、主な内容は次の通りである。

1. 協議会

- 第1回例会 平成19年6月2日(月)
行政からの連絡事項
規約改正について
- 第2回例会 平成20年8月28日(木)
役員の任期について
規約改正について
- 第3回例会 平成21年1月30日(金)
規約改定について

2. 通常総会 平成20年6月2日

4. 研修会

日 時：平成21年1月30日

テーマ：食の安全、水の安全

講 師：横浜市健康福祉局生活衛生課
食品衛生係長 森田 昌弘先生
居住衛生係長 前橋 昌幸先生

神奈川県簡易専用水道検査機関名簿

| | | |
|-----|---------------|-------|
| 会 長 | 神奈川県予防医学協会理事長 | 土屋 尚 |
| 副会長 | 日本環境衛生センター | 成毛 精一 |
| 機 関 | よこはま環境センター | 吉村 映美 |
| 〃 | 北里環境科学センター | 松本 浩一 |
| 〃 | 東京顕微鏡院 | 宮脇 浩 |
| 〃 | 神奈川県保健協会 | 洪川 範幸 |
| 〃 | 神奈川県貯水槽協会 | 竹内 幸治 |
| 〃 | 食品薬品安全センター | 今野 稔 |
| 〃 | 神奈川県薬剤師会 | 山口 勇治 |
| 事務局 | 神奈川県予防医学協会 | 芦田 敏文 |

(会長機関順、敬称略)

(事務局・加藤 光孝)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し31年目。各地区医師会・行政・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理解除となった者に対する追跡調査のまとめ。26年間の卒後検診の総括を実施する予定で、基本的なデータの集積及び検討を行った。

責任者 藤原 芳人 (本会幹事・横浜市医師会)

2. 調査研究

- ① 学校現場と医療分野の連携を図るため、各市町村養護教諭部会と講演と情報交換の会を実施予定したが、今年度は日程調整がまとまらず実施し出来なかった。

責任者 生駒 雅昭
(本会幹事・聖マリアンナ医科大学 准教授)

- ② 各地区の判定委員会の現状と問題点の把握 平成20年11月8日(土) 4地区・7名
・各地区現状報告 (内科医との連携)
・学校腎臓病検診マニュアルの検討
・尿沈渣表記法の標準化 (JCCLS法)
・各地区尿検査実施状況報告

責任者 小坂橋 靖
(本会幹事・聖マリアンナ医科大学 小児科名誉教授)

II 総会および研究会

平成20年10月18日(土)15:00～

松村ガーデンホール
テーマ ①「赤血球円柱の表記法が診断に与える影響 (JCCLS法)」

講師 こども医療センター 腎臓内科 高橋 英彦 先生

②「尿沈渣表記法の標準化 (JCCLS法の準拠)」

講師 神奈川県予防医学協会 検査部 金子 治司

出席者 31名

III 医師部会研究会

1. 医師部会研究会 (第1回)

7月26日(土)15:00～ 松村ガーデンホール
テーマ 「小児の尿路感染症について」

講師 こども医療センター 泌尿器科 部長 山崎雄一郎 先生

出席者 17名

2. 医師部会研究会 (第2回)

12月6日(土)15:00～ 松村ガーデンホール
テーマ 「小児のCKDについて」

講師 東海大学病院 小児科 准教授 新村 文男 先生

出席者 17名

IV 知識普及活動

1. 研究会機関誌「じん」発刊 29・30合併号 (2,000部)
2. ホームページ活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。
(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)
(事務局・佐藤 光宣)

禁煙・分煙活動を推進する神奈川県議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

「健康増進法」に続き国では「がん対策基本法」、神奈川県では「かながわ健康プラン21」、「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」が策定され、タバコ対策が重点課題とされている。

また、神奈川県においては「公共的施設における受動喫煙防止条例」が平成21年3月に成立し22年4月から施行される。本会も本条例成立に向けて積極的に活動を展開してきた。

20年度活動内容

I 会議

- (1) 総会 6月7日
- (2) 理事会 6回

II 事業

1. シンポジウム 6月7日
2. 神奈川県民フォーラムへの協力 7月21日
3. クリーンエアの集い IN KANAGAWA 9月21日
4. 港南区 区民フォーラム「美容と健康—美貌と美肌をいつまでも」 1月10日
5. 神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例 (仮称) について県議会議員等に聞く市民公開シンポジウム 2月14日
6. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナー
委託事業として随時開催 (学校、保健福祉事務所、市町村等)
7. 関連会議への協力・参加 4回
8. イベントへの参加
(1) 港南台駅前キャンペーン 8月1日
(2) リレー・フォー・ライフ 9月14日15日
(3) 横浜ライフデザインフェア 9月20日21日
(4) 港南区役所健康フェスティバル10月26日
(5) すこやかかながわ一万人健康ウォーク「健康生活展」11月8日
9. 知事との県民タウンミーティングへ協力 (藤原芳人理事が発言者) 1月18日
10. 日本医療政策機構「医療政策クラークシップ」 3月21日
11. 懇談、団体等への要望など
松沢知事、県健康増進課、県教育委員会、県議会、県PTA協議会・役員会
12. 雑誌など掲載
13. メーリングリスト (NL) の運営・管理
14. ホームページの運営

役員 (理事会) の構成

(21年6月6日現在)

会長 中山 脩郎 (神奈川県内科医学名誉会長)

副会長 渡辺古志郎 (横浜市民病院病院長)

〃 西野 一紘 (神奈川県歯科医師会副会長)

〃 大野 秀利 (神奈川県薬剤師会常務理事)

会計、理事、監事 29名 (医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等)

(事務局・栗原 博)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を開催している。

1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加人数

- ① 4月19日「子どもの目と脳の活性化」—視力回復について—中川和宏・ビジョンフィットネスセンター所長・15人
- ② 5月10日「子どもの居場所」—私の出会った子どもたち—西野博之・NPO法人フリースペースたまりば理事長・11人
- ③ 6月28日「全身を笑顔にしよう」・神原泰三・ヒューマンヘルス研究会代表・11人
- ④ 7月19日「児童思春期発症の摂食障害」・南達哉・神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科・16人
- ⑤ 9月6日「問題解決に保護者の力をどう生かすか」—具体的事例を通して—・小見祐子・柿の木坂相談室、臨床心理士・12人
- ⑥ 10月25日「人格の尊重とはどういうこと？」—ある精神障害者との対応から—・高田和子・神奈川学校保健研究会名誉会長・6人
- ⑦ 11月15日「学校で発生しやすい怪我とその対応について」—実技編—・佐藤和義・大船接骨院院長、柔道整復師・12人
- ⑧ 12月6日「子どもたちの生きる力を育む教育」—豊かな人間関係づくりについて—・青木弘・豊かな人間関係づくり研究家・9人
- ⑨ 1月17日「色彩表現としてのコラージュ体験」・藤掛明・聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター准教授・10人
- ⑩ 2月21日「色彩学からみた豊かな生活」・前野公江・日本パーソナルカラーリスト協会認定指導者・18人
- ⑪ 3月27日、施設見学会「川崎市子ども夢パーク」・3人

2. 夏期講習会

日時：平成20年8月11日～13日

テーマ：「自己理解と他者理解の心とこころの響きを求めて」～支援・導入の方法を広げる～

- ① 11日「現代っ子との教育的対話法」—聞かせておくだけで伸びる法—大草正信・大草心理臨床・教育相談室主宰
- ② 12日「発達障害をもつ子どもへの対応」～周りの支援で障害を”個性”に～・小見祐子・柿の木坂相談室臨床心理士、「音楽療法」村井靖児・聖徳大学教授
- ③ 13日「子どもを知り、子どもを理解する」藤掛明・聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター准教授

会員状況

小学校12人、中学校12人、高校・短大6人、その他23人、計53人

役員

(順不同、敬称略、平成21年5月31日現在)

| | |
|------|---------------------|
| 名誉会長 | 高田 和子 |
| 会長 | 山口 京子 |
| 副会長 | 藤沢 恵子 (横浜市立南舞岡小学校) |
| 幹事 | 佐藤まゆみ (神奈川県立川崎高校) |
| | 鈴木 晴美 (横浜市立浦島小学校) |
| | 坂井 悦子 (横浜市立閻門小学校) |
| | 中野 保子 (横浜市立日吉台中学校) |
| | 木村千恵子 (川崎市立千代ヶ丘小学校) |
| | 平山 京子 (北鎌倉女子学園) |
| | 菊池 幸江 (川崎市立桜本中学校) |
| | 大木美恵子 (川崎市立南菅中学校) |
| | 後藤 和泉 (秦野市立本町中学校) |
| 監事 | 中川 優子 (藤沢市立藤ヶ岡中学校) |
| | 工平 きん (横浜市立勝田小学校) |

(事務局・船崎隆文)